

電気通信大学 平成18年度シラバス

授業科目名	文章表現法		
英文授業科目名	Training of Japanese Reading and Writing		
開講年度	2006年度	開講年次	1、2年次
開講学期	1、3学期	開講コース・課程	昼間コース
授業の方法		単位数	2
科目区分	総合文化科目-人文・社会科学科目-		
開講学科・専攻	情報通信工学科 情報工学科 電子工学科 量子・物質工学科 知能機械工学科 システム工学科 人間コミュニケーション学科		
担当教官名	島内 景二		
居室	東1-815		

公開E-Mail	授業関連Webページ
shimauch@bunka.uec.ac.jp	

<p>【主題および達成目標】</p> <p>最近、日本人の国語力が全般的に落ちていると言われる。国語力は、芸術力や文学力とは違い、先天的なセンスとかフィーリングとかではなく、後天的な努力によってどんなにでも向上するものである。だから、国語力の低下は、日本の教育力の低下であり、一人一人の向上心の低下である。</p> <p>この科目は、昨年の平成17年度からの新設科目である。講義者は電通大に着任して20年間、学生諸君のレポートや試験答案を毎年、大量に読んできた。そして、「文学」だけではなく「国語」の力を向上させる科目が本学にどうしても必要であると決意するに至った。</p> <p>もしかしたら受講者の人数によっては、一人一人へのキメ細かな指導は不可能かもしれないが、なるべく実践的で諸君の役に立つ講義となるように心がける。</p> <p>この科目は、講義する側だけでなく、受講する学生諸君の側も積極的に参加することが必要である。</p> <p>芸術として完成している高度な文学作品を分析するのが「文学」の講義であるが、この「文章表現法」は実務的・論理的な文章を読解・執筆する力を養成することに眼目がある。</p>
--

<p>【前もって履修しておくべき科目】</p> <p>特になし。</p>

電気通信大学 平成18年度シラバス

【前もって履修しておくことが望ましい科目】

特になし。

【教科書等】

教科書は、使わない。毎時間、プリントを配布する。

過去20年間の学生諸君のレポートや試験答案も、氏名などの個人情報が漏れないように十分に配慮したうえで、教材として用いることがある。

【授業内容とその進め方】

次のような内容を計画している。それぞれ、1～2回。

- ・平仮名とカタカナの成り立ち
- ・原稿用紙の使い方
- ・手紙の書き方
- ・レポートの書き方
- ・推敲と校正の必要性
- ・レポートの添削例
- ・誤字・誤植
- ・日本語の常識
- ・キーワードの見つけ方
- ・形式段落の構成に着目する精読
- ・学生諸君の質問に答える
- ・終わりに

【成績評価方法及び評価基準(最低達成基準を含む)】

複数回、レポートを提出してもらう。

学期末には、「読む力」と「書く力」を計測する論述試験を実施する。

それらを総合的に勘案して、最終成績を決定する。

つまり、出席するだけでなく、課題をその都度きちんと提出する普段の努力が必要である。

【オフィスアワー：授業相談】

特に設けない。質問等は、公開してあるメールで申し出ること。なるべく早く、返答します。

【学生へのメッセージ】

もう今のままで十分に見事な日本語を書ける人、自力で漱石全集を読破できる人、また小学生の作文程度の稚拙な作文しか書けない人、生まれてからこれまでに一冊も本を読んだことのない人、そういう人にはこの科目は役に立たないかもしれない。

この講義は、「普通に日本語が読め、普通に日本語が書ける」と思いこんでいて、実際にはやや日本語運用能力が劣る人に、最も有効だろう。

でも、恥ずかしがることはない。誰でも最初は書くのが下手だったし、読み方もよく知らなかったのだ。ただし、講義者が「来週までに読んできて」とか「来週までに書いてきて」と言った宿題をきちんと済ませる「やる気」と「向上心」は必要である。

【その他】